

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0176700540		
法人名	有限会社 そうせい舎		
事業所名	グループホーム あったか宝来館		
所在地	〒097-0024 稚内市宝来2丁目2番19号 (電話) 0162-24-6000		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年2月22日	評価確定日	平成22年3月18日

【情報提供票より】 (平成22年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	11 人	常勤 4人, 非常勤 7人, 常勤換算	4.45 人

(2) 建物概要 木造

建物構造	木造	造り
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	21,000~27,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(2月22日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.1歳	最低	67歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立稚内病院 盆子原歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所の母体法人は、当地域で居宅介護事業所及びヘルパーステーションも運営しており、高齢者世帯の実情、要望を把握することに努めている。退去した利用者へのアルバムには管理者が書いた詩を添え、暮らしぶりを撮影したDVDビデオも合わせて家族に送付している。職員配置にゆとりがあり、利用者に対して個別に対応しており、できる限り気持ちを尊重し寄り添うことで、安全、安心感のある生活の場となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で提起されていた、運営推進会議の定期開催については調整などを進め、さらに開催回数を増やすことを目指している。また、介護計画書に連動した日常の記録についても職員間で討議し、新たな独自のシートを取り入れるなど、日常の記録から前回評価の達成状況が把握できるように改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者は評価のねらいや活用について理解しており、全職員が話し合う場を持っている。自己評価を行ったことにより、より一層家族や地域との触れ合いの大切さを感じたり、日々のケアを見直すなど、事業所のサービスの質の確保と向上に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議に地域住民や行政担当者などが参加している。会議では、利用者の状況や事業所の運営方針やケアサービスの実情、高齢者問題及び外部評価結果などについて報告している。また、災害時などにおける地域との関係などを議題としており、事業所の質の向上に活かしている。利用者の安全や安心、生活の維持向上のため、多方面との連携と協力を大切にしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>広報誌「風便り」、利用者個々の状況、暮らしぶりを撮影した写真、エピソードなどを盛り込んだ手紙を、家族へ月1度送付している。行事の際や来訪時等にも意見を聞くよう心がけ、家族からの意見や要望についてはミーティングで討議し、ケアサービスや運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営者は地域ケア会議などに参加し、行政担当者や地域包括支援センター職員、関係機関との情報交換等を行い、協力関係を築いている。町内会に加入し、夏祭りなどの行事に招待されたり、事業所での各行事にも地域住民が参加している。事業所周りの草取りは婦人部の協力で行うなど、これらの活動を通じて支え合う関係を構築している。また、一人暮らしなどの、高齢者介護の悩み等についても、相談に応じる体制を整備している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員で話し合い、確認しながら尊厳や個性を大切にしている。当地域との関係性を重視し、地域で安心した暮らしを支え合うための事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念の共有及び実践を重要視しており、ミーティング等で意識化を図っている。日々利用者に関わる際にも、管理者は職員と共に理念を共有したケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者は利用者が地域で安心して暮らせるように、事業所の多様性、機能性の啓蒙に努め、地域との連携を大切にしている。町内会の祭りなどに参加したり、事業所での各行事へ参加を呼びかけるなど、地域との相互交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は外部評価のねらいや活用方法について理解を深めており、自己評価は職員が個々にシートへ記入している。ミーティングで話し合い、評価を活かして改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は、利用者、家族、地域包括支援センター職員、福祉活動実践者、町内会長等で構成している。会議では利用者の状況、事業所の運営方針の説明やケアサービスの実情について報告している。また、会議にオブザーバーとして消防分団長が参加しており、災害時における利用者の安全確保等サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議等で市の担当者や地域包括支援センター職員に事業所の実情やケアサービスの取り組み状況を報告し、意見交換や協働に努めている。また、広い範囲の福祉関係者との情報交換なども行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族から行事などを通して、意見や要望を気軽に伝えることができる機会を設けている。毎月発行している便りには利用者の暮らしぶりの写真を掲載し、利用者個々の様子はそれぞれの家族へ手紙で報告している。家族の来訪時には、利用者の状態やケアについて報告しており、健康状態に変化が見られた時には迅速に対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部及び外部機関の苦情相談窓口を明示している。日ごろから家族と交流を図り、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに心がけ、メールでも対応している。また、家族から出された意見等を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者と職員間の馴染みの関係を重視している。事業所として待遇改善や内部、外部研修を通じて職員育成に取り組み、離職を必要最小限に抑える努力をしている。職員の交代がやむを得ない時には事前に説明等し、利用者のダメージを防ぐよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が持つネットワークを活かしたり、事業所全体でセミナーを開催し、枠にとらわれない学びの機会に取り組んでいる。また、管理者は職員全体のより一層の技術と知識のレベルアップのため、段階的に外部研修への参加の機会を設け、トレーニングしていくことを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との交流や連携の必要性を認識しており、市内には他事業所が少ない状況下ではあるが、新規事業所やスタッフ間の交流を行い、サービスについての気づきの機会としている。また、市の地域ケア会議に参加し情報交換を行い、運営やケアサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急の利用開始の希望者が多い中、本人や家族の個々の状況に応じて、それぞれの想いを受容しながら対応に努めている。日常から行事を多く設定し、一人暮らしの高齢者にも参加を呼びかけ、交流を深めている。利用開始直後は、特に不安を取り除くような対応に心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所のケア理念に基づいて、楽しく笑顔で過ごすことに心がけ、利用者一人ひとりの人格を尊重し、思いを共感し理解することに努めながら生活を支援している。また、職員は利用者から漬物づくりなど生活の知恵や伝統文化の知識等を学ぶこともあり、より良い関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、職員が利用者一人ひとりについての気づきなどを独自のモニタリング表や業務日誌に記録し、全職員が共有することで思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関りの中で意向を受け止め、記録をもとにアセスメントを行い、運営者も同席しミーティングで検討している。利用者主体の生活を支えるための介護計画になるよう、家族や利用者を含めたカンファレンスを実施し、介護支援専門員を中心に課題を見つけながら、より良い生活が送れるよう利用者に沿った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しの際には一人ひとりの実情に沿っているかを、アセスメントシートや引継ぎ連絡ノート等を照らし合わせ、運営者を含めた全職員で確認している。また、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度家族に説明し、介護計画を修正及び追加するなどし、同意を得てから新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、かかりつけ医の受診や緊急の利用の依頼に対応できる受け入れ体制で、利用者個々の思いに配慮して柔軟な支援を行っている。また、職員が大学の非常勤講師をするなど、地域に根ざしながら社会福祉資源としての機能を地域に還元している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院やそれぞれのかかりつけ医への通院対応も、利用者や家族の要望に応じている。その際同行した職員が家族に受診結果を報告し、職員間で共有している。また、健康管理や緊急時に対応できる体制も確立している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の場合の支援体制や介護方法について、職員で話し合い、事業所としての方針を重要事項説明書に明記している。また、家族や医療機関と連携し、病状に応じて家族の意見を確認しながら、全体で支援していく体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の適切な取り扱いのためのガイドラインを順守し、利用者の権利と尊厳を守り、安全管理に配慮する個人情報の利用目的を明示している。また、利用者の日々の生活支援では尊厳を重視し、プライバシーに配慮したケアに努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、その日の体調や思いに沿って個別性を大切に、満足感や安心感が得られるよう工夫している。「ゆったり、楽しく、寄り添って」のケアを基本にしており、その人らしい生活が送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し、季節感を大事にした行事食や外食、屋外での食事などを取り入れ、食事に変化をつけ楽しみなものになる支援をしている。職員も一緒にテーブルを囲み、自由な語らいの中で楽しい食事の時間となるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や曜日を事業所で決めるのではなく、一人ひとりの生活習慣や利用者の希望を尊重して、できる限り自由な時間で楽しめるよう支援している。また、安心や安全に入浴ができるような工夫と配慮もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と一緒に買物や野菜づくり、ハイビスカス等の観葉植物の育成など、利用者一人ひとりの力を活かし、日々の暮らしの中で役割や気晴らしのできる機会をつくるよう心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身のリフレッシュにつながるよう、職員と一対一の散歩や買い物等、一人ひとりの希望に沿った個別外出に取り組んでいる。また、事業所では外出の機会を多く設け、足湯など季節に応じた外出にも取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでおり、利用者が自由に出入りできるよう支援をしている。利用者が外出しようとした場合には安全に配慮して声かけし、付き添っている。居室は、のれんでプライバシーに配慮し、鍵をかけず何時も開放している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを整備し、避難訓練は消防署の協力を得て年2回行い、消防設備や避難経路の確認等し、夜間及び津波を想定した訓練もしている。また、運営推進会議を通じて地域との災害時の相互協力体制を構築している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー表を定期的に栄養士が精査し、栄養バランスやカロリーの偏りが無いよう配慮し献立を作成しており、利用者の嗜好や身体状況に合わせて美味しく食べられるよう配慮している。また、季節や運動量、水分量等を考慮し事業所独自のチェック表を活用し、職員間で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの南側に面した窓が二つあり、自然な陽ざしが射し込み、団らんしやすいようにソファやテーブルを配置している。全体的に家庭的な造りとなっており、自宅の延長として、自分の力でその人らしく過ごせる場となっている。また、金魚の水槽や雛人形、観葉植物を置くなど、生活感や季節感があり、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意向や家族の協力を得て、それぞれが生活しやすい居室づくりを支援している。使い慣れた家具や愛用品を持ち込み、利用開始前の生活となるべく変わらないように工夫している。また、個々に合わせベッドの高さを調整するなど、安全面にも配慮している。		

※  は、重点項目。